



「へそのごま」をとると、なぜおなかが痛くなるの

「へそ」はへそのおのとれたあと

「へそ」は、赤ちゃんのときの、へそのおのとれたあとです。

へそのおは、赤ちゃんが、お母さんのおなかの中にいたときには、おなかの中のたいばんにつながっていました。へそのおを通して、赤ちゃんの必要な栄養や酸素は、お母さんから送られ、いらなくなったものは、へそのおを通してお母さんへ送られ、お母さんが、捨ててくれたのです。

「へそのお」は、赤ちゃんの命づなだったのです。

赤ちゃんが生まれた後は、へそのおは必要がなくなり、自然に切りはなされます。そして、動脈や静脈など、へそのおの中を通過していた血管の先などは縮んでしまい、その上をうすい皮ふがおおってしまいます。そのため、おへそはおなかの中では、腹膜という、内臓を包んでいる膜につながっているだけになります。

おなかが痛くなるのは

この腹膜には、たくさんの痛さを感じる神経があります。そのため、へそのごまをとろうとして、へその中のびん感な部分にさわったりすると、おなかの中にある腹膜をしげきしてしまうために、おなかが痛くなるのです。

(監修・保志 宏)

